

## 再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・技術課

担当課長名：東川 直正

<b>事業名</b> 一般国道113号 鷹ノ巣道路 <small>たかのすどうろ</small>	<b>事業区分</b>	一般国道	<b>事業主体</b>	国土交通省 北陸地方整備局	
<b>起終点</b> 自：新潟県岩船郡関川村大字下川口 <small>いわふね せきかわ おおあさしもかわくち</small> 至：新潟県岩船郡関川村大字片貝 <small>いわふね せきかわ おおあさかたかい</small>				<b>延長</b> 5.0km	
<b>事業概要</b> 一般国道113号鷹ノ巣道路は地域高規格道路新潟山形南部連絡道路の一部を形成し、災害に強い幹線道路ネットワークの形成、急カーブ・急勾配区間及び冬期交通障害等の回避、物流や観光、地域経済活動の活性化などを主な目的とした延長5.0kmの道路事業である。					
H9年度事業化		都市計画決定なし		H13年度用地着手	
全体事業費		約 220億円		事業進捗率 (平成30年3月末時点)	
				約38%	
				供用済延長	
				0.0km	
<b>地域の防災面の課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関川村内の一般国道113号は、山間部を通過する代替路の無い県際道路であり、冠水や災害等による通行止め時には大幅な迂回を強いられる。</li> <li>・ 昭和59年度には融雪を起因とする地すべり災害で約106時間にわたり全面通行止めとなり、近年では平成23年度に集中豪雨に伴う冠水による通行止めが発生。</li> <li>・ 当該区間の防災面の課題は、沿線住民の日常生活や経済活動、そして救命救急活動を営む上で重大な障害や不安要素となっており、関川村をはじめとする関係市町村からも改善要望がだされているなど地域の喫緊の課題となっている。</li> </ul>					
<b>課題を踏まえた対策・事業内容</b> 現道は一級河川荒川とJR米坂線に挟まれていることや、現道対策は大規模な法面対策が必要となる等、課題が多いため、5.0kmの別線を整備することにより課題箇所を回避。					
<b>事業の効果等</b>			<b>費用</b> (残事業) / (事業全体)		
① 走行時間の短縮等 156億円 (残事業156億円) ② 災害に強いネットワークの確保 ・ 防災危険箇所等の災害発生の危険性が高い箇所を回避することで、災害に強い道路ネットワークを形成 ③ 安全で信頼性の高い道路ネットワークの確保 ・ 線形不良区間の回避等により安全で円滑な走行空間の確保が図られ、信頼性の高い道路ネットワークを形成 ④ 広域物流ネットワークの強化・安定した物流経路の確保 ・ 国道113号は近畿や東海、信州等を起終点とする広域物流を支える役割を担う ・ 安定した物流経路が確保されることで半導体や自動車産業分野のサプライチェーンを確保 ⑤ 広域観光ルート形成による沿道地域活性化支援 ・ 周辺地域の観光資源を結び付けることで周遊観光や広域的な観光を支援 ・ 定時性の向上により観光地の滞在時間増加に寄与 ⑥ 救急医療施設へのアクセス向上 ・ 救急医療施設への搬送時間の短縮や搬送時の安全性確保など迅速な救命救急活動を支援 ・ 県境を越える人工透析等の通院者の移動時間短縮や安全性を確保			124 / 233億円 ( 事業費 : 110 / 218億円 ) ( 維持管理費 : 15 / 15億円 )		
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> ・ 地域から頂いた主な意見等： 新潟山形南部連絡道路建設促進期成同盟会等から整備促進の要望を受けている。					

・新潟県知事の意見：

県民の命と暮らしを守り、豊かな新潟県を創るため事業継続を望みます。本事業は、急カーブ・急勾配区間及び冬期交通障害の回避により災害に強いネットワークを形成するものです。さらに、広域物流機能の強化に資するなどの地域経済活動の活性化に効果があることから、本県にとって重要な事業と認識しています。今後も事業実施により1日も早い完成をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、再評価および対応方針（原案）のとおり事業継続することが妥当。

事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等

日本海沿岸東北自動車道の荒川胎内ICあらかわたない～朝日まほろばICが平成23年3月までに開通済み。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業の進捗状況：用地進捗率81%、事業進捗率38%（平成30年3月末時点）
- ・残事業の内容：道路設計、改良工事、橋梁工事、トンネル工事

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

道路設計、改良工事及び橋梁工事を推進し、関川村大字下川口しもかわぐち～同村大字大内おおうちぶち間の早期完成2車線供用を目指して整備を進める。

施設の構造や工法の変更等

- ・1号トンネルでは、用地買収完了後に地質調査を追加実施したところ、脆弱な地層があることが判明した他、巨大岩塊が混在する崩積土地山が確認された。その結果を踏まえ、トンネル詳細設計を実施したところ、掘削による地山の緩みや小規模な崩落の危険性があることから、施工時の安全性を確保するために掘削時の補助工法が必要となった。
- ・鷹ノ巣事業の大内おおうちぶち、下川口しもかわぐち地区では、切土で発生する土砂を盛土材として利用することを計画。当該地区の切土材は脆弱であり、盛土材として利用する際は土質改良が必要であることから、地質調査及び室内試験の結果を踏まえ土質改良の添加量を設計していた。施工に際し、現地採取土により配合試験を行ったところ当初想定以上に脆弱であり、土質改良の添加量を増加させる必要があった。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

必要性、重要性は変わっておらず、事業進捗の見込みなどからも、引き続き事業を継続することが妥当。

事業概要図



※1 事業の効果に記載している金額は、防災面の効果を完成後50年間の便益額として現在価値化して算出した値であり、試算値を含む。

※2 費用に記載している金額は、現在価値化して算出した値。